

浅野侑三

今日は、故湯浅年子を記念する行事を行っていただいて、親類としてまことに有難く、感謝しております。湯浅年子は、私にとっては叔母にあたり、列席されている市井敏夫氏と同じ立場にあります。私は島根県の僻地に疎開し、そこで育ったため、子供の頃に叔母に会う機会はあまりありませんでした。東大に入学して、物理学を専攻した時、叔母は大変喜んでくれて、朝永振一郎の「量子力学」や、荒木源太郎の「分子論」などの古い本を送ってくれました。これらは、著者から直接叔母に贈られたものかも知れません。荒木博士は東京文理科大学で父と同級生だったそうです。父は文理科大学で物理の助手をしていて、御茶ノ水高師の学生だった叔母は、そこで物理実験の指導を受けておりました。叔母は父に自分の姉を紹介し、二人は結婚しました。

私と妻が、叔母に直接個人的に会ったのは、ニューヨークで、私がコロンビア大学博士課程で勉強している時でした。その時の彼女は健康そうで、我々は日本料理屋に行って、うんと日本酒を飲みました。我々のアパートで、私が自作したステレオアンプを見て感心し、パリの自分の所にも、桑折氏が作ってくれた物がある、と言っておりました。当時コロンビア大学では、ネヴィス研究所のシンクロサイクロトロンの改造がうまく行かず、D論を書くのに困り、ブルックヘブンで実験をしておりました。その窮状を G. E. Brown 博士に話したら、それが叔母に伝わり、随分と心配した長い手紙をもらいました。

次に叔母に会ったのは、日本で、彼女は癌を患っておりました。今回は彼女はほとんど飲酒はしませんでした。KEK 初代所長の諏訪博士が、加速器が成功するまで飲酒はしないと固く決心されているのに深く感銘を受けているようでした。

コロンビア大学での私の指導教官は、C. S. Wu 女史でした。彼女は、ドラゴンレディーとか、スレーブドライバーなどと陰口をたたかれています。しかし、私は彼女のことが良く理解できました。叔母からは、女性科学者であることの愚痴は一度も聞いたことがありません。フランスでは、マイノリティとして働く環境がずっと良かったのだらうと認めざるを得ません。しかし、以前のアメリカはそうではありませんでした。Wu 博士は、ベータ崩壊でのパリティ非保存を最初に実験的に示す、すばらしい仕事をしました。その仕事はノーベル賞に値すると考える人もおり、彼女が受賞できなかったのは、ダブルマイノリティだからだという人もおりました。即ち、彼女は生まれつきのアメリカ人ではなく、しかも女性であるということです。

他の学生が不在の夕方など、Wu 博士は時々私の居室に来て、アメリカ生活の事を話してくれました。彼女はいつも、アメリカで生きて行く為には、常にアメリカ人より良い仕事をしなければならぬ、と言っておりました。アメリカ人と同じ仕事をしたのでは、認められない、と。そして若い頃のサンフランシスコでのつらい経験のことを話されました。指導教官からベリリウムの加工をするように言われて、その毒で死にかけたこともある、と。困ったことは、興奮してくると、彼女はいつか中国語で話していることでした。アメリカ人を追い越さねばならない、という彼女の気持が自分に対しても、自分と共に働く人に対しても、厳しいノルマを課すことになったのでしょうか。そのために、ドラゴンレディーとかスレーブドライバーと呼ばれるようになったのだと思います。叔母は、マイノリティとして研究することの苦勞は何も話さなかったけれど、やはり大きな困難が

あったらろうと想像します。

Wu 博士がアメリカ人に対して対抗心を持っておられたのと同様、どういう訳か、叔母はイギリス人に対して警戒しているようでした。何か特別な競争相手がいたのか、それとも一般的な話だったのかはわかりませんでした。イギリスのグループは徹底的な実験をするので、論争する時はよほど気をつけなくてははいけない、といつも言っておりました。

叔母は癌を患ってからは、体に良いといわれることは何でもしました。動物の生き血を飲んだりもしたそうです。母は、島根で一緒に住もうと説得しました。しかし、叔母は、自分にはまだすることがある、と言ってフランスに帰りました。多分、日仏科学協力事業のことが気にかかっていたのでしょう。ここにおられる市井さんは、全力で彼女の世話をしました。物理の先生方も一所懸命に世話をしてくれました。中でも、坂井光夫博士は、献身的な努力をして下さいました。

叔母が危篤であった頃、私は KEK で国際協力の実験をしておりました。データ収集プログラムを一人で引き受けていたので、どうしても KEK を離れることは出来ませんでした。東大での指導教官だった森永晴彦先生から、すぐパリに來い、と言われたのですが、出来ませんでした。残念なことです。

今や、働く女性の環境は良くなりつつあると思います。実際、世界でも日本でも、次第に多くの女性が偉業を達成しつつあります。叔母は病気のため、志半ばでこの世をさらねばならなかったことは、大変残念だったでしょう。しかし、今、大きな期待と望みをもって、女性による偉業を見守っていることでしょう。

御清聴有難うございました。